

## 経営一転語 41 目標の変更はすべきか

今回は目標について考えてみましょう。人間は、やはり目標があると、それを達成したくなるものです。「馬の鼻の先ににんじんをぶら下げる」とはよく言ったものです。

やはり、目標はあった方がよいに決まっています。しかし、目標はなかなか達成できないものです。ではその時に、目標は変更した方がよいのでしょうか？

時々、目標を実績に合わせて、下方修正する会社をお見受けします。実は、このようなことをしては、いつまでたっても業績の向上は望めないのです。目標というのは、あくまでも我が社の目指す姿として、現実がどうであろうとも動かしてはいけないものなのです。

現実の課題は、課題として、その解決のために、現実在即して、手を打つことが必要です。目標と現実が違うのであるならば、それを合致させる努力をしていかなければなりません。

そして、目標というのは、やはり経営計画から落とし込まれたものであることが必要です。（私は経営計画の作成を最優先事項としてお薦めしています。）

また、例外として、目標を変更することが正しい場合があります。その場合とは、「客観情勢が大きく変わって、現在の目標では、生き残れる条件が満たせなくなったとき」と「社長の持つ「未来ビジョン」が大きく発展したとき」です。

その時には、目標を上方修正しなくてはなりません。企業の設定する目標の変更は、あくまでも前向きに、企業の存続と発展のために行われるものであって、決して、後ろ向きに達成率を高めるために、実績に合わせて行うものではないのです。

### <演習課題>

1. 今年一年の目標を立ててみましょう。